

令和4年度 園評価書

高部こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A : よくてきている B : 概ねできている C : あまりできていない D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	○園説明 △課題	年度末自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	☆改善策 (来年度の具体的取組目標)
心豊かでたくましくいたかべっこ	「もっとやりたい」思いを存分に出し切る	子ども達は、気づきを楽しみ、考え、試したり工夫したりしている	○好きなことを楽しむ中で、多くの気づきについて考えたり、時には友達に教えてもらったり、諦めずに工夫して取り組む姿が見られるようになってきている。また、気づいたことを伝えようとする姿も多く、発見を楽しんでいる△試したり、工夫したりする姿がでてきているが、さらに深めるような姿につなげていきたい	A	A	・誰にでも気軽に声をかけることができ、「こっちにて」、「見て見て」と自分の楽しんでいることを知らせる姿が見られ、素直、意欲的な子が多い	☆遊びに没頭できる教材、子どもの発達にあった遊びの環境準備をし、自由に試せるように安全性を考えた環境を用意していく ☆子ども自ら考えたり、友達の考え方に触れ、新たな気づき等を得られるような言葉かけや関わりを意識し、より探究的な姿につなげていく
		子ども達は、自分の思いや感じたことを行動や言葉で表現し、他者との関わりを楽しんでいる	○夢中で遊んでいる時や自己発揮する中で、思いを出し、友達とつながりをもっている。また、友達の考えを認め合い、翌日やりたいことを子ども達で決め、活動が連続してきている △思いのぶつかり合いや困ったことがあった時等経験の少なさも、思いの出し方に課題もある	A	A	・遊びのコーナーがあることで、子ども達が自分で選んで始まりと終わりを決めて遊んでいた ・倉庫が自分達で出し入れできる環境で、自分が使いたい遊具を好きな時に使って遊んでいた。倉庫が整理されていたので、片付けがしやすい環境になっている	☆担任間の連携やフリー保育教諭に声をかけるなどし、安全面の配慮をすると共に園全体で子どもをみていくという意識をもっていく ☆どう伝えたら良いのか考える場を大切に、時間と場を確保し、必要な言葉を知らせていく ☆今後も少人数で話し合う場を繰り返し設けていく
		子ども達は、「もっとやりたい」と自分から体を動かして意欲的に遊んでいる	○竹馬、三角竹馬、縄跳び等体を動かして遊ぶ姿を皆から認めてもらい、自分から「もっとやりたい」につながってきた ○友達の意欲的な姿に背中を押され、目標をもって意欲的に体を動かす遊びに取り組む姿が見られるようになった △動きが活発になってきた分、保育者が危険を予測をし、危険回避の方法を知らせたり、子どもと考えたりする場面をつくっていく必要がある	A	A		☆遊びによって園庭の配置を変え、思い切り身体を動かして遊ぶことにつながるようになる ☆個々の発達段階に応じて遊びを提供したり、選択肢を作ることで子どもの意欲につなげていく

大項目	中項目	評価指標	園説明	年度末自己評価	関係者評価		
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一環した教育及び保育	職員は、各年齢の発達を捉え、子どもの行動や発見を認めたり、励ましたりしながら良さに目を向けるような援助をしている	○昨年度に比べると子どもの良さを捉え、その行動や発見を認めて関わるようになってきた。今後、さらに良さを捉えた関わりを広げていく	A	A	・子どもの姿が輝いている。どの子も自信をもって遊んでいるからこそその姿だと感じる	☆8つの問いを使って個々を見取り、深い子ども理解につながってきている。今後も良さと可能性を捉えながら、子ども理解を深め、環境構成に活かしていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	職員は、異年齢での活動においては、その発達や経験の差を十分に理解し、適切な環境構成や援助を行っている	○発達や経験の差を考慮した環境、援助を意識して実践を行っている	A	A	・研修において職員の子どもの見方を広げるための手だてを取っている。今後も園全体で考えていけると子ども理解がさらに進むのではないかと	☆学年、または、個々一人一人の発達や育ちを理解した上での援助を考えていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	職員は、子ども達が考えたり、試したりしながら、遊び込むことができる環境構成や保育の工夫をしている	○遊び込めるように様々な環境を用意しているが、もっと引き出しを増やし、「もっとやりたい」の意欲につなげていく	B	A	・インクルーシブ教育保育が行われており、特に行事の時のフォローが素晴らしい。その子にあったことを伸ばす関わりがされていた	☆実技研修等を通して、職員の引き出しを増やす。子どもの興味関心はどうか、楽しんでいることは何かを捉えた環境構成につなげていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園は、ヒヤリ・ハット場面を通して分析し、予防対策をしている	○ヒヤリ・ハット場面の分析をすぐに行い、職員全体で共有し、大きな事故につながらないように予防的な取組を行っている	A	A	・課題を感じながら日々の取組を進めていること、またそのことを園内で共有していることが大切だと思う	☆常に危険な場面の想定すると共に、子どもと一緒に遊びながら、危険回避の方法を知らせたり、考えたりしていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園は、保護者と連携しつつ、三密の回避、マスクの着用、手洗い等の基本的感染対策をしている	○子ども達自身で手洗いうがい等を意識して行うようになってきた	A	A	・ドキュメンテーションに具体的な写真が言葉が添えられ子どもの姿を知ることが出来た。また、子どもと保護者同士の会話にもつながっている	☆常に手洗いうがいの大切さを伝え、職員も体調管理をはかりながら、早めの休息を心掛けていく。また、お互いに休暇を取りやすい環境をつくっていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達に合った支援計画を作成し、園全体で共有していく	○一人一人の発達について各クラス、園全体で話し合い、共通理解のもと、支援計画作成を行い、対応にあたっている	A	A		☆今後も一人一人の状況、特性に合わせた対応を多様な考えを持ち、職員間で共通理解していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	園務分掌のリーダーを中心に取り組み、情報の周知をしていく	○情報周知を書類や口頭で図っている。今後も学年や全体とその内容によって周知方法を変えながら徹底できるようにしていく	B	A		☆伝達が全体に伝わるよう、朝の打ち合わせノートの活用や適宜、クラス間、副主任に伝えてもらうなどその時の情報に合わせて伝達が自分事と捉えて周知できるようにしていく
6 研修	(1)研修体制の充実	園は、毎日15分の学年会議を行い、明日につながる環境構成につなげている	○毎日、学年会議を行い、子どもの興味関心をクラス内の職員で共通認識を図り、明日につながる環境構成につなげていく	A	A		☆曜日や時間を決め、少ない人数でも実施していく習慣をつけ、メモなどに残すなどして、目に触れるようにしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	年齢の発達に応じたその時の興味関心に応じた環境を構成したり、教材を準備したりしていく	○今後も何故、そこに興味をもったかを深く探り、その他の環境作りにつなげていく	B	A		☆個々の子ども理解を深めるための研修を継続していく。また、教材研究で職員の引き出しを増やしていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園だより、クラスだより、毎日のお便りボード等により、園の取り組みや園の様子を伝える	○園だよりやクラスだより、ボードなどの活用、また降園時や参加会、懇談会で子どもの様子を保護者と情報交換し、思いを共有している	A	A		☆今後も参観会や懇談会で、テーマを募ったり、その時の必要感に合わせた話し合いを行い、子育てを共有していけるようにする
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園・近隣校との連携を図り、情報交換や研修を進めていく	○小学校との交流をオンラインで行った。大中協議会に「たかべっこ架け橋部会」を設置し、交流を深め、アプローチカリキュラム作成につなげた	B	B	・今後できることから少しずつ始めていけるとよい ・子どもを地域で育てるためにも学校と協力し合って交流を深めていってほしい	☆今後も学校体験や交流や訪問、校庭で遊ばせてもらう、職員同士の話し合いなど実体験の交流を継続していく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	豊かな体験が得られるよう、地域の様々な人との関わりを大切にいく	○水害被害にあった際、近隣園や地域の方々から様々な形で支援していただき、地域の温かさを感じることが出来た。	B	B		☆職員自らが近隣の方、場所等に関心を持ったり、声を掛けたりと受け止めるだけでなく、発信していく取組ができるようにしていく